

匝瑳市総合計画中期基本計画策定に係る
団体懇談会

協議報告書

平成23年6月

匝 瑳 市

目 次

団体懇談会次第	1
団体懇談会協議報告書 第1分科会（健康・福祉・医療）	2
団体懇談会協議報告書 第2分科会（産業・経済）	1 2
団体懇談会協議報告書 第3分科会（生活環境・都市建設）	1 8
団体懇談会協議報告書 第4分科会（教育・交流）	2 6
団体懇談会会議写真	3 1

団 体 懇 談 会 次 第

日 時 平成 23 年 5 月 15 日 (日)

午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分

(全体会) 午後 1 時 30 分～午後 1 時 50 分

(分科会) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

会 場

(全体会) 市民ふれあいセンター会議室(2階)

(分科会) 第 1 分科会 第 1 会議室(1階)

第 2 分科会 視聴覚室(2階)

第 3 分科会 談話室(1階)

第 4 分科会 第 3 会議室 (2階)

■全体会

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 市政概要説明
- 4 市民意識調査結果報告
- 5 閉 会

■分科会

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 意見交換
- 4 閉 会

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第1分科会 (健康・福祉・医療)	会場	ふれあいセンター第1会議室
協議日時	平成23年5月15日 (日) 14:06 ~ 15:58		
出席者	越川恭充 (匝瑳市社会福祉協議会会長)、伊知地宮子 (匝瑳市ボランティア連絡協議会会長)、伊藤稔 (匝瑳市民生委員児童委員協議会会長)、石毛達夫 (匝瑳人権擁護委員協議会第三部会匝瑳市支部委員)、江波戸久元 (匝瑳医師会理事)、江波戸寛 (匝瑳市歯科医師会会長)、勝山慶一 (匝瑳薬剤師会会長)、安藤建子 (匝瑳市保健推進委員会副会長)、林良子 (匝瑳市母子寡婦福祉会会長)、日色昭浩 (匝瑳市身体障害者福祉会会長)、片岡工 (匝瑳市老人クラブ連合会会長)、林幸子 (WITH理事長)、佐藤剛雄 (匝瑳市手をつなぐ育成会理事長)		
	計13名		
市職員	太田安規市長、木内成幸企画課長 (司会)、平山新治市民課長、椿隆夫健康管理課長、大木公男福祉課長、柏熊明典高齢者支援課長、山内保則市民病院事務局長、熱田一稔市民ふれあいセンター所長、勝股幹雄企画課副主査 (書記)		
	計9名		
協議概要	1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。 2 意見交換 ○健康・体力づくりの推進について 民生委員児童委員協議会:八日市場ドームの利用状況についてわかる範囲で報告願いたい。各種団体等の利用状況ではなく、市民個人が健康維持のために自主的にどのように活用しているのかについて、また、その利用者の人数についても教えてもらいたい。 企画課長:資料の都合上、団体と個人を合わせた全体の利用者の実績となってしまうが、平成22年度については、293日開館して、利用件数は1,993件、利用人数は59,829人であり、平成21年度と比較すると、利用件数では23件の増、利用人数では37人の増という状況である。前年度に比べて微増となっている。 民生委員児童委員協議会:旭市には、旭スポーツの森公園という運動スポーツ施設がある。そこには、トレーニング設備等があって、有料で市民は月額2,000円で、市民でない者は3,000円を払えば、会員として利用できるというものであり、利用時間も午後9時までとなっている。運動器具等も充実しているため、利用者が大変多い。外部団体に委託して施設運営しているようでもある。これにならって、八日市場ドームにもそのようなシステムを導入したり、もっと設備等を充実すれば、利用者も増えて市民の		

	<p>健康づくりや体力づくりに寄与する施設になるのではないか。</p> <p>社会福祉協議会：先日、市民病院へ行く機会があったが、どうも患者数が少ないようであった。患者数が少ない原因は何か。</p> <p>市民病院事務局長：数年前に比べると医師の数が半減しているため、診察できる患者数が少なくなっている。</p> <p>身体障害者福祉会：市民意識調査の23ページにある、「現在の医療体制についてどう感じているか」という問いでは、「とても不安を感じる」、「多少不安を感じる」を合わせると82%以上になっている。次の24ページにある、「地域の医療環境への取組みで何が重要と考えるか」という問いでは、「市民病院の機能強化を図る」という回答が一番高い回答率となっている。今の市民病院は、いずれ改修又は改築をしなければならないと思う。そこで、八日市場駅の南側がきれいに整備され、ロータリーがありバスやタクシーも止まれるようになってはいるが、実際は使われていない状況がある。医師会との相談もあると思うが、思い切って市民病院を八日市場駅の南側に移転してはどうか。そうすれば、医師も来やすくなり、職員も働きやすくなって意欲が沸き、お客も利用しやすくなる。そのような相乗効果も出てくると思うので、移転等について将来的に検討してみてもどうか。</p> <p>母子寡婦福祉会：八日市場駅の南側は広々としているし、いくらでも開発ができると思うので、ある程度のビジョンを持って、病院だけでなく看護や介護関係の養成学校のようなものも造ってみても良いかと思う。</p> <p>市長：八日市場駅南口の開発については、改札の設置を視野に入れてJRと協議をしていけば、もっと良い開発ができるのではないかと考えているので、駅南側の開発整備をしていく上での参考としたい。</p> <p>医師会：市民病院の状況に関して言えば、厚生労働省の指導による研修医制度がある中で、現在、医師が自分で自由に研修する病院を選ぶことができるため、旭中央病院等の大きな病院へ医師が行ってしまい、市民病院のような地方の病院に来る医師が少なくなっている。そのような厳しい状況で、そう簡単に医師が見つからない中でも、活力のある、やる気のある医師を見つければ、それに伴って良いスタッフも出てきて、来院患者も増えて、病院に活力が生まれると考える。病院長や事務局長もやる気のある良い医師を探すことに努力されているところであり、これからも期待したい。</p> <p>市長：現在、市民病院の医師には数が少ない中で頑張ってもらっている。今後一人でも多く、意欲のある良い医師に来てもらえるよう努力していく。</p> <p>母子寡婦福祉会：自分の住む集落には45世帯あるが、老人が45%を占めていて、</p>
--	---

60歳以上の者が各世帯に半分近くいる。残りの55%は0歳から60歳までの人であるが、働く人が少ないということで税金を納める人も少ない。こういう状況では、どうしても衰退してしまう。やはり若い人を呼び込まなければいけないし、人口減少も防がなければいけない。

手をつなぐ育成会：スポーツ関係で意見を述べたい。現在匝瑳市では、グランドゴルフの競技人口が増えていて、ゲートボールが下火になってしまっている。毎年「千葉県東部五市体育大会」が開催されているが、今では競技として10人必要なところ5人くらいしかいないので大会にも参加できなくなってしまう状況である。市でゲートボールの競技人口を増やすため、何か手助けをしてもらいたい。

市長：健康づくりのためのスポーツなので、広報等を活用して競技会員が増えるよう、ゲートボールのPR等に努めたい。

○子育て支援について

ボランティア協議会：市民病院の診療科の件であるが、子どもはあらかじめ何曜日に小児科にかかるというよりも時を選ばず、突発的にかかる場合が多い。したがって、診療日を増やして継続的に、また、夜間診療をもっと行う等、子どもやその親達が地元で安心して診療を受けられる体制を整えてほしい。医師が少ない状況の中ではあるが、市内の開業医ともうまく連携して、当番制での曜日診療や夜間診療をもっと充実させ、急に熱を出した子どものための救急診療にも対応可能な頼られる市民病院としてもらいたい。そうならば、子育て世代の親達が安心して暮らせるようになり、市民病院にも多く足を運んでもらえるようになるのではないかな。

市民病院事務局長：市民病院の小児科については、以前は設置されていたが、現在は設置されていない。全国的にも小児科や産婦人科の医師の数が減ってしまっているため、市民病院もその影響を受けて残念ながら設置されていない状況である。

健康管理課長：救急の小児診療については、広報等に載せているところでもあるが、県の事業として、「#（シャープ）8000」という小児救急の電話相談事業を展開している。これは、子どもを持つ親達に対して、夜間に急に子どもの具合が悪くなったとき、受診した方が良いのか、それとも様子をみても大丈夫なのかということを、看護師や小児科医が電話でアドバイスする夜間サービスである。

人権擁護委員協議会：医師の確保の難しさは十分にわかる場所であるが、市民病院も医師会の会長である橋場先生等がいた時代は、外科の評判が非常に良かった。その頃、成田日赤病院は心臓外科が良く、小見川総合病院にして

も特色ある医療という形を取っていた。そのような面からして、「市民病院といたら、この科・・・。」というように特色ある病院づくりを目指したらどうか。良い医師をできるだけ確保し、当然全部とまではいかないが、それでも何か特色のある病院を作っていける良い方策はないかと常々思っている。

歯科医師会：今は病気にならないような体をつくるということで、食育というものが話題になっている。行政においては、病気の予防活動にも一生懸命に力を注いでいるところであると思う。そのような啓蒙活動の中で食育に関連して、歯科医師会としても口腔の環境、つまり歯の健康というものに対しての意識を植え付けさせるために、先般市長に対して、「フッ素洗口」についての啓蒙をお願いしたところである。虫歯予防にも生きてくるし、医療費も大分削減できるようになる。特に小・中学校に対しては「フッ素洗口」をもっと取り入れてほしい。親や子に対しての啓蒙・啓発活動をもっと充実させ、周知を図り、健康に対する意識をもっと高めてもらいたい。

企画課長：市では、今後「食育推進計画」を策定していくところである。是非参考にさせていただきたいと思う。

保健推進委員会：保健推進委員会は、市内の小・中学校に対して、食育のボランティア活動を行っている。例えば、家庭科の授業の中での調理実習に赴き、鯛(いわし)を使った鯛団子を作るとき、魚を触れない生徒がほとんどなので、まず鯛に触ることから推進員が教える活動を行っている。毎年、各地区の小学校や中学校で行われ、その地区の推進員が担当している。このほかにも、塩分を抑えた老人に対する食事、弁当づくりの指導のボランティアもしている。市内各地区に250人弱の推進員がいて、健康づくりのための食事について指導しているので、希望があればいつでも応じる。

医師会：少子化問題について、小さい子どもが熱を出したとき等に預けるあてがない親達のために、そのような子どもを預かり、小児科の医師等と連絡を取り合える体制が整っている保育施設があると良い。仕事をしている親達は、子どもが熱を出したとき等には休まなければならないが、そのような保育施設があれば仕事を休まなくても済み、子どもを持つ親達は非常に助かると思う。

保健推進委員会：そのような要望は、以前からたくさんあると聞いている。しかし、熱を出した子ども等の預かりをしてくれるような保育施設を実現させるには、医師と看護師が施設に配置されなければならない。そもそも預かれない場合には基準があって、その一つに発熱がある。37度5分以上の熱があると、登園を遠慮してもらわないといけな。それは、病気の感染と

いうものを基本に考慮されている。もし、一人の子どもが病気にかかっていたら、他の子どもにも感染して、病気が施設全体に蔓延してしまうおそれがあるからである。発熱の原因が何であるのかも特定しないといけないということもあるので、熱を出した子どもについては、病院で診察してもらってそのまま自宅で待機してもらわなければならない。よって、親達は不便な思いをすることになる。

医師会：小児科の医師が管理して看護師等のスタッフを常駐させて、例えば市民病院にそのような保育施設を作るとなると、今の市民病院には小児科の医師がいないので、内科の医師では患者を診れない。それならば、市内の幼児を預かってくれる保育施設に小児科経験のある医師が出向いて診れるというシステムを構築できれば、そのような保育施設を作ることができるのではないか。

ボランティア協議会：子どもを持ちながら働いている親にとっては、子どもが病気になったときに預かってくれる施設が必要である。例えば、市民病院でそのような施設が作ることができたら良いと思うし、親達も助かると思う。

薬剤師会：子どもがかかる病気は、熱を出したとか、お腹を下したとかという簡単な病気ばかりではない。中には1割あるいは2割、小児科でないと手に負えないものがあると思う。したがって、やはり小児科は必要となってくると思う。

○高齢者、障害者福祉について

老人クラブ連合会：老人クラブ連合会は、6,500人ほどの会員がいるが、役員の成り手がいない。成り手がいないから会の解散という話まで出てしまうくらいである。現在、運営のために行政から補助金等を出してもらっているが、福祉関係の援助をより一層行ってもらえるようお願いする。

WITH:障害のある子どもやその保護者に対する市の福祉事業でマザーズホームの前身にあたる事業から関わってきている。以前と比べて障害のある子どもやその保護者が現在のマザーズホーム事業を活用しており、マザーズホームも良くなってきた。今いろいろな学校で放課後クラブという活動があるが、特別支援学校は、県立なので基本的に空き教室があれば、放課後活動しても良いということだった。そのような活動を希望したいとき、障害のある子どもを持つ保護者として、教育委員会に相談したら良いのか、それとも福祉課に相談したら良いのかわからなかった。子育ての委員会とか、自立支援協議会とか、いろいろな会にも参加してはいるが、医療的にも福祉的にも教育的にも全部見てもらわないと該当しない感じだったので、市にも相談に乗ってもらいながら自分たちで何とかNPO法人を立ち

上げた。我々WITHは、一時支援活動として、日中5、6人の面倒を見ていて、障害のある子どもを持つ保護者が毎日仕事に行けるような環境が作れて良かったと思っている。その活動の場所として、今一軒家を借りている。夏休みになると、その中で子ども達を長時間見守っているということは大変な部分もあるので、どこか開放された場所を提供してもらうことは難しいのか。例えば、一団体として米倉分校の体育館等を借りることはできないか。以前、八日市場ドームにも相談に行ったことがあるが、小・中学校の子ども達は借りられるが、特別支援学校の子ども達の場合の例はないとのことで、先生による引率があればという条件を言われた。条例等を整備しないとできないとも言われた。40日ある夏休みの期間中、8時間も狭い一軒家で活動するのは厳しいので、どこか開放してもらえる施設はないか。

市長：どこの部署が相談窓口となり、どのような施設が対応可能か、是非内部で検討したい。

WITH：今回東北で発生した震災のような災害時に、障害者や高齢者は、周囲の人達と一緒に避難した場合、どうしても馴染めない部分があったりして、本人やその保護者たちが恐縮してしまう場面が出てくると思う。震災時の障害者や高齢者の対応として、そのような際の相談窓口であったり、障害者や高齢者を別括りにして避難させるような場所や手立て等が確立されていると良い。

市長：いざ災害というときに、身体障害者等も安心して避難できるような場所や施設については、要望も出ているし、必要性も十分に理解している。

身体障害者福祉会：市で作った防災計画があるが、その計画の中で要援護者のための福祉避難所を別に設けるという記述がされている。しかしながら、今回の東日本大震災の際には、初めての大きな災害ということもあり、実際には計画のとおりには運用されなかった。

母子寡婦福祉会：福祉避難所は、その場所が指定されているのか。

身体障害者福祉会：場所は指定されていないが、防災計画の中では福祉避難所を別に設けるという記述に止まっている。

身体障害者福祉会：今回の東日本大震災後、先日、救援物資を持って岩手県の陸前高田市へ行ってきた。そこでは、廃業したホテルを市で買い取り、特別養護老人ホームに改修して運営していた。老人ホームの人達からは絶大な支持を受けて、市長の決断でなされたが、今回の津波により壊滅状態となってしまう、建物だけになってしまった。現在、匝瑳市には未利用・未活用の施設等がある。その中に13,000㎡の敷地の旧飯高小学校があるが、

校舎を改修して、特別養護老人ホームに替えることができないか。もしできないければ、校舎を壊して跡地に特別養護老人ホームを建設することはできないか。匝瑳市は、特に高齢者比率が高いし、人口が減ったとしても、高齢者や待機者の数は減らない状況が続くと思う。今後減らないであろう待機者のためにも、対策として将来的に特別養護老人ホームを増やすことを検討してもらいたい。

WITH：学校を卒業して医療的ケアが必要な障害のある子ども達のための作業所、医療や看護が備わっているところでそのような子ども達を預かってくれる施設があると、障害のある子どもを持つ親達の負担は軽減されて良い。市にも福祉作業所があるが、そこは自立した人達が通う所となっていて、障害が重く少し手がかかってしまうような子どもを通わせることは難しい。したがって、そのような子ども達は、現在全員が他市のNPO等の民間団体が運営している作業所へ通っている状況である。平成24年度から障害者自立支援法の新法に基づいて、市の福祉作業所ほほえみ園も運営体制等が変わる形になっているが、早急に変わるものではないような感じもする。これから学校を卒業していく障害のある子ども達の卒業後のために、福祉作業所等の活動できる場所、施設を設置してほしい。

○地域特性を生かした総合的な取組み、その他のまちづくりへの提案について

母子寡婦福祉会：現在、高速道路は横芝光町まで延伸されているが、その先はどうなっているのか。もし高速道路が整備されれば、大きな企業等を誘致できる条件が整うのではないかな。

市長：横芝光インターからの延伸については、県の事業として整備する計画がある。その計画では、横芝光インターから総武本線の線路を横切り、匝瑳市から旭市までを通すルートとなっている。現在、県が地権者や近隣の住民といった関係者に対して説明をしている段階であり、協力を得られるにはもう少し地元関係者との意見調整に時間を要するようである。

歯科医師会：これから用地の買い上げをしていくことになるのか。

市長：ルートは定まっているが、用地の取得ができていない状況である。

歯科医師会：銚子連絡道路の整備計画は、以前から始まっていたと思うが、予算もまだ組まれていないということなのか。

市長：まだ予算は組まれていない。用地買収が可能になった段階で県が予算を付けることになると思う。県としても、もし用地買収が可能でない段階で見切り発車をすると計画が頓挫してしまうのではないかなという懸念を持っている。

薬剤師会：あと何年でできるという予定はあるのか。

	<p>市長：今のところ何とも言えない。基本的に県の事業なので、手が出せない状態ではあるが、市としても県と地元関係者との間をうまく取り持つ等、できる限り調整機能を果たしていきたい。</p> <p>歯科医師会：少子化問題に絡んでであるが、市では、結婚適齢期の若者達がいて、それらが匝瑳市で結婚して夫婦での収入面がどれくらいで、子どもができた場合、その育児にどのくらいの費用がかかっているのかという観点で、どのくらいの人まで子どもを持つことが可能なのかというシミュレーション、分析をしたことがあるか。</p> <p>企画課長：市では、次世代育成の面での計画を策定してはいるが、匝瑳市の経済状況の中で、子どもは何人くらいまで持てるかというところまでのシミュレーションは行っていない。</p> <p>歯科医師会：そのような次世代の若者達の収入面や育児等にかかる経費等をシミュレーションし、少子化の原因点は何であるのか、それに対してどのような策を練っていけば良いのかというところを考えていけば、次世代の若者達への有効な支援策へ繋げていけるのではないかと。</p> <p>企画課長：少子化問題については、状況を分析して目標を設定し、課題を整理して対応していきたい。</p> <p>薬剤師会：JR総武本線についてであるが、下り普通電車の半分近くが成東駅止まりとなっている。平日の特急電車の最終も成東駅止まりで、その土日便は廃止されてしまった。普通電車も最終便は横芝駅までしか来ない。八日市場駅まであと二駅のところなので、何とか八日市場駅まで引き込むことはできないものなのか。</p> <p>市長：今年の2月に宇野県議会議員とともに、JR千葉支社へ最終電車の八日市場駅までの延伸について要望した。そのときの回答は、JRも厳しい経営の中、難しいというものであった。</p> <p>企画課長：補足すると、従前の最終電車は成東駅止まりであった。その際、翌日の始発電車として、待避線のある横芝駅まで空の状態でも回送させていた。それならば、人を乗せて横芝駅まで運行しても一緒であるということで、横芝駅まで最終電車が延伸された。八日市場駅には待避線がないので、仮に待避線を作って、人員を配置してとまでいくと事業費が課題となり、なかなか難しいということであった。しかし、八日市場駅まで最終電車を延伸することにより、東京からの遅い時間帯のアクセスを確保でき、通勤にも良い影響があると考えてるので、要望を継続させていきたい。</p> <p>医師会：少子化問題に関係するが、近年、未婚の若者達が多いことに少し驚きを感じている。結婚しなくても良いという意識が強まっているのか、それ</p>
--	--

	<p>とも地域的な特性があるのか。その辺も含めて結婚率の推移等が統計的にわかるものがあるか。</p> <p>企画課長：昔に比べると全国的に自立している女性が多くなっていることや晩婚化等、いろいろな要因が考えられる。そのような中、何らかのきっかけを作っていく意味で、結婚活動への支援が全国的にも多くの自治体で行われている。本市でも銚子市や旭市が行っている出会い創出事業である婚活パーティーに取り組み始めた。人口減少抑制対策の一環ともなっているので、未婚者の意識やニーズ等のリサーチ、分析を行いながら、今後は婚活パーティーのみでなく、関連する様々なイベント等の事業展開を図っていききたい。</p> <p>身体障害者福祉会：大分昔になるが、市で農村青年と若い女性とが一緒にキャンプをする企画があった。2泊3日のスケジュールで自炊等の共同作業をして過ごすというものであった。やはり、企画事業としては、テレビでよく見るような対面方式のインスピレーションに任せるような類ではなく、共同作業を通じてお互いの気持ちをわかり合っていき、交際に結びついていくようなものの方が効果があると思う。</p> <p>人権擁護委員協議会：若年世代には雇用の場が必要で、高齢者には養護老人ホームといった施設が必要である。企業を誘致して働ける場所を増やしたり、高齢者が安心して暮らせるための施設を増やしたりした方が良い。その辺りの事情等を市で十分精査して、良い方向付けをしてもらいたい。</p> <p>社会福祉協議会：近年の景気低迷の厳しい中であるが、やはり、若年層にとって、仕事の間、働く場が必要である。自営業の人はともかく、勤め人にとっては、雇用の場が大事になってくる。働く場所を見つけるために働くところのある外へ出て行ってしまふ。そうすると、生活基盤自体も移ってしまう。それが人口減少に繋がってきてしまっている。</p> <p>母子寡婦福祉会：若い世代は一度都会へ出て、そこで職に就いてしまうと、Uターンして地元へ帰ってくる傾向はほとんどない。</p> <p>市長：雇用の場創出の重要性を十分に踏まえ、活気あるまちづくりを目指していききたい。</p> <p>社会福祉協議会：今回の東日本大震災で市の海岸も被害があったと思うが、その影響で海水浴場の開設も見込めなくなってしまったのではないかと。</p> <p>市長：現在、匝瑳市の海水浴場は、堀川浜海水浴場のみとなっている。昨年は、海岸の侵食により危険性が高いという理由で開設を中止した。今年も海岸侵食の程度を調査して、開設するかどうかの判断をするが、近年の海岸侵食の状況を考慮すると、厳しい状況であると思われる。</p>
--	---

	<p>人権擁護委員協議会：サーファーの間では、関東では吉崎浜が一番良いスポットと 言われているようである。なぜかという、浜の近くまで車で入れるし、 駐車も300台から400台くらいは可能だからである。また、有名人も よく訪れたりすると聞く。震災の影響や海岸侵食の問題もあるが、観光の 資源としての要素は持っているので大事にしてほしい。</p> <p>薬剤師会：震災後、電力不足が懸念されている中で街の外灯が付けっぱなしになっ ているのが気になる。高速道路でさえ、灯りを減らしている。誰も通らな いようなところまで、外灯を一晩中付けている。小さいことかもしれない が見直してはどうか。</p> <p>母子寡婦福祉会：外灯は防犯上の意味もあるのである程度は必要ではないか。電灯 をLEDに替えてみてはどうか。</p> <p>市長：現在、LED化の方向で防犯灯を替えているところである。市の節電対策 として、また節電の啓蒙、啓発の意味も込めて今後も推進していきたい。</p> <p>ボランティア協議会：ボランティア協議会の中にフレンドリーというグループがあ る。目の不自由な方、車椅子生活の方、生活保護を受けている方等の実体 験を知ってもらうため、市内の小・中学校等の各学校へ出前福祉講座を行 っている。子どものうちから、そのような人たちの手助けとか、車椅子を 押して高齢者を病院に連れて行くとかいうようなことに慣れておくこと が必要である。例えば、今回の震災のようなときに、自分のおじいさん、 おばあさんを介助できたという例もあるので、そういう福祉講座活動を今 後もっと広めていく予定である。ほかにも災害ボランティアコーディネー ター養成講座というのもあり、これはいろいろな団体の方々に普段から受 けてもらうと非常にためになるものである。いざ災害のときにどのように してボランティアを立ち上げたら良いのか等、災害時に役に立つ講座であ る。今後は、このような災害時に役に立つ講座等の出張活動を積極的に行 っていきたい。</p> <p>歯科医師会：再度となるが、小・中学校に対して、「フッ素洗口」についての更な る啓発をお願いしたい。</p> <p>以上</p>
--	---

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第2分科会 (産業・経済)	会場	ふれあいセンター視聴覚室
協議日時	平成23年5月15日 (日) 14:05 ~ 16:00		
出席者	<p>熊切清 (匝瑳市農業委員会会長)、柏熊剛 (匝瑳市商工会青年部部長)、大木すみ江 (匝瑳市商工会女性部副部長)、並木孝雄 (匝瑳商業協同組合理事長)、黒須公夫 (匝瑳市観光協会会長)、林義雄 (ちばみどり農業協同組合専務理事)、大木靖貴 (JAちばみどり青年部そうさ支部八日市場地区支部副支部長)、角田洋子 (JAちばみどり女性部そうさ支部八日市場地区支部支部長)、萩原幸雄 (農事組合法人八日市場植木組合組合長)、熱田健治 (匝瑳市植木組合組合長)、小林千恵子 (八日市場生活研究会会長)、福家邦夫 (匝瑳市みどり平工業団地連絡協議会会長)、江波戸久 (社団法人匝瑳市シルバー人材センター会長)、鎌形利一 (千葉県大根土地改良区理事長)、石毛建則 (千葉県干潟土地改良区事務局長)、佐藤勝廣 (北総東部土地改良区理事)、布施保 (千葉県借当川沿岸土地改良区理事長)、秋山誠 (吉田西部土地改良区理事長)、大木忠良 (両総土地改良区管理委員会南条支部委員長)、青木栄作 (アルカディアの会代表)</p> <p style="text-align: right;">計20名</p>		
市職員	<p>鈴木一郎副市長、宇野健一財政課長 (司会)、島田省悟税務課長、小林正幸産業振興課長、林明敏会計課長、江波戸保農業委員会事務局長、鈴木良雄納税推進室長、林勝美商工観光室長、椎名貴之企画課副主査 (書記)</p> <p style="text-align: right;">計9名</p>		
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 意見交換</p> <p>○匝瑳市の農林水産について</p> <p>アルカディアの会:匝瑳市の特色ある農産物等を市外へ積極的に情報発信するべきである。市がそうした情報を整理し、誰でも情報共有できるような仕組みをつくり、市全体で共存共栄を図りたい。</p> <p>商業協同組合:先般、商工会で赤ピーマン料理コンテストをオーシャンマート126で開催し、評判が良かった。このような市の農産物や海産物等を使ったイベントをJT跡地で開催し、県内外へPRしてはどうか。人が集まれば商店街も潤うのではないかと。</p> <p>シルバー人材センター:市の農産物等のPRがうまくいっていない。青森県五所川原市は市全体でリンゴのPRをしており、また、県全体でもPRを行っている。匝瑳市は農業のまちなので、農産物を活かし、米のブランド化(そうさの舞)や米を使ったパンを作ってPRしてみてもどうか。そして、農</p>		

	<p>産物や植木は1人で生産と販売の両方を行おうとするとなかなかうまくいかないの、生産者と販売者の役割を分離してうまく絡み合わせる必要があるのではないか。</p> <p>八日市場植木組合：「NHKゆうどきネットワーク」等に組合員が生出演をしたこともあり、NHKやフジテレビ等のマスメディアにはパイプを持っている。また、千葉県植木生産組合連合会の主催により、千葉県植木共進会が今年の10月25日から11月1日にかけて匝瑳市植木センターを会場として開催される予定である。その際には、匝瑳市の植木を大々的にPRしようと考えている。</p> <p>ちばみどり農協：農協では青年部や女性部と協力して、小学校で食育活動を行っている。匝瑳市は植木のまちだと思っているので、植木を中心として米や野菜を付随させ、一つの形としてブランド化し、6次産業化していくことが必要ではないか。また、多古町では都心から多くの人が農業体験に訪れているが、マスメディアの利用も含め、市または東総地域として何をブランド化してPRしていくべきか考える必要がある。</p> <p>干潟土地改良区：飼料用米の協議会はいつごろ発足するのか。</p> <p>産業振興課長：協議会の発足については震災の影響もあり、もう少し時間をいただきたい。食育活動については、市でも食育推進事業を行っており、今年度中に食育に関する計画を策定する予定である。JT跡地の活用については、一時的な活用として、今年度中に地域活性化に貢献できるようなイベントを開催する予定である。</p> <p>商業協同組合：JT跡地だけ商業地域としても何にもならないので、何らかの形で行政主導による有効な活用を検討していただきたい。</p> <p>農業委員会：遊休農地のとりまとめや5年、10年を経過した認定農業者の再認定をお願いしたい。また、先ほどアルカディアさんの自己紹介の中で都会から若者が来て新規就農の動きがあるというお話があったが、匝瑳市としては大歓迎である。このほか、県から農業者年金の新規加入者数が全国で千葉県が最低であり、その中でも匝瑳市は県内で最低であるという連絡があった。50歳までは農業者年金に加入できるので、各団体の皆様には該当者がいればご紹介をお願いしたい。</p> <p>匝瑳市植木組合：植木の販売活動について、昨年、幕張メッセで海外向けの即売会があり、市長にトップセールスをしていただいたところであるが、匝瑳市は市外から見た場合、知名度が低い。お金をかけてでも市自体のPRをしていただきたい。また、植木だけでなく他の生産物も含め、都市部で市のPRをしていただきたい。</p>
--	--

八日市場植木組合:県の生産販売振興課とタイアップして匝瑳市の食材を販売してもらいたい。

産業振興課長:匝瑳市に欠けているのは対外的に市の魅力をPRすることである。植木だけをPRするのではなく、農産物等を併せてPRした方が人の心を動かしやすいので、今後は観光分野と抱き合わせたPRも検討したい。

副市長:知名度に関連して、全国的には「匝瑳市」という市の名前を読めない人が多い。それを逆手にとってPRする方法もあるのではないか。

大利根土地改良区:農協さんをお願いしたいのだが、飼料用米の受け手がとても少ない。集荷の協力をお願いしたい。

ちばみどり農協:飼料用米については、作り手はたくさんいるが受け手が少ない。先ほどお話の出た飼料用米の協議会に農協が入れば対応を検討するが、それがはっきりしないと対応できない。

産業振興課長:国の経営体育成基盤整備事業により、飼料用米を中心とした経営に転換を図っていかなければならない状況のため、飼料用米については過剰供給の状態であり、飼料用米を受ける畜産農家の開発ができていない。先ほども述べたとおり、協議会の発足についてお時間をいただき、できる限り早く調整したい。

農業委員会:土地改良区の皆様にお願ひがある。宅地転用に係る排水問題の関係で、転用を許可するための審議に3ヶ月かかったことがあった。その理由は、排水問題の関係で地元の役員の許可は得ていたが、地元の農業委員が反対だったためである。最終的にはご理解をいただいて許可したが、地元の土地改良区で許可書を出す際には十分精査した上で発行していただきたい。

○商工業の振興について

大利根土地改良区:ふれあいパーク八日市場の隣にイオンが建設されるという話を聞いたが本当か。

農業委員会:イオンではなくエービンである。開店時期は不明である。

シルバー人材センター:市内の商店へ買い物に行くと駐車場が狭く不便な場所が多い。そして、市内には大型店舗が進出してきていることもあり、個人の商店が利益を出していくためには、商品を安く売るだけでなく、製造まで行わなければならないのではないか。また、現在、世間は地震の影響で自粛ムードとなっているが、商工業の振興は、いかにして人を集めるかが重要なので、八重垣神社祇園祭のようなイベントは自粛しないで派手に行っていただきたい。

商業協同組合:今年の八重垣神社祇園祭は開催が決定しているが、一時的な集客では何にもならない。そのため、市には空き店舗対策をお願いしたい。先般、

	<p>長野県佐久市の商店街協同組合に視察に行ったが、そこでは行政の力を借りながら協同組合が一括して空き店舗を借り上げ、それを起業したい人に貸し出す事業を行っていた。起業したい人には研修を行い、それをクリアすると優先的に空き店舗を貸し出したり、その他にも家賃の補助を行ったりして、空き店舗対策を非常にうまく行っていた。また、商品券について、現在、加盟店が減っている時代の中、大型店対策としてではなく、使いやすい商品券の検討をしているところである。そして、先ほど市のPRが足りないのではないかという話があったが、多古町はFMラジオ (b a y f m) を使って非常にうまくPRをしている。そうしたPR方法の活用も検討してみてはどうか。</p> <p>大利根土地改良区:有料と無料で分けた商店街の駐車場の地図を作るべきではないか。</p> <p>産業振興課長:商店街の駐車場は増えてきており、今年度中に「(仮称) まちなかマップ」という市内の商店、駐車場を掲載した地図を作成する予定である。</p> <p>副市長:現在、市の人口は減少を続けており、その原因の一つに若者が就職する企業が市内にないために市外へ流出してしまっていることが挙げられる。みどり平工業団地はどのくらいの雇用のキャパシティがあって、現在はどうのような状況なのか。</p> <p>みどり平工業団地連協会:現在、工業団地の立地企業数は27社であり、約1,000人が従業員として働いている。個々の企業により事情は異なるが、どの企業も人をたくさん雇用しなければならない状況ではなく、現在の国の経済状況と同様でかなり厳しい状況である。また、企業によって従業員数は異なるが、最大で200人、最小では派遣社員やパートを除くと1人という企業もある。</p> <p>副市長:優秀な地元の中小企業が存在しても、若者の多くは大企業に就職を希望するため、市外へ出て行ってしまう。つまり、市の企業実態と若者の志向がミスマッチしている。このミスマッチを解消するために市が若者に対して地元の企業を紹介する就職説明会等を行うといった支援は役に立つか。</p> <p>みどり平工業団地連協会:どの企業も将来のことを考えれば採用を全くしないことはないので、市がそういう場を設けてくれるのであれば決してマイナスになることはない。</p> <p>観光協会:従業員の住んでいる地域はどのような状況か。</p> <p>みどり平工業団地連協会:企業によって異なるが、半数近くの企業が地元の人で100%となっている。ただし、地元の人には銚子市や旭市から通勤してくる人も含む。</p>
--	---

アルカディアの会:テレビのバラエティ番組で世界一の風呂を作っている企業が匝瑳市にあることを紹介していたが、市内にはこんな企業があるというPRを試してみるのはいかがでしょうか。

観光協会:市の全部の団体が統一のPRをするのはいかがでしょうか。

匝瑳市植木組合:植木まつりは市からの補助金なしで、組合員の負担金等で実施している。売り上げの10%を経費に充てているが、広告費が約70万円かかり、植木まつり自体は赤字である。もう少し公共の場や関係団体を通してうまくPRをして広告費を下げたい。

○観光の振興について

観光協会:天神山桜まつりを今後も開催していきたいが、入り口が田町からの一方向しかなく、迂回できるようにする等、もっと公園を利用しやすくなるような道路整備をお願いしたい。

商業協同組合:桜まつりだけで終わりではなく、もっと天神山公園を活用するため、一年を通して観光できるものをお金をかけてでも整備するべきである。それと同時に観光を総合的に考え、交通の利便性や駅からのアクセスを良くすることも必要である。

シルバー人材センター:吉崎浜は多くのサーファーが訪れ、夏場は大会等が開催されるたびに500台、今日は200台ほど車で訪れている。このたびの地震の津波により、100mほど海岸の自転車道が流され、現在、改めて整備するようであるが、海岸線の西側の駐車場も津波により砂が流され、でこぼこになっているため、舗装してはどうか。昨年からは供用が開始された吉崎浜野外トイレは多くの人に利用されている。

財政課長:自転車道の整備については、県が事業を行っている。

○地域特性を生かした総合的な取組み、その他のまちづくりへの提案について

アルカディアの会:空き家バンクを作ってもらいたい。空き家を貸すことができる人の情報を取りまとめ、誰でも情報共有できるようにしてもらいたい。

生活研究会:植木まつりのPRの話が出ていたが、私は朝市組合に加入しており、毎月第1日曜日に消費者サービスを実施している。以前は防災行政無線で朝市の開催について放送してもらい、大きな集客効果があったが、いつのまにか放送してもらえなくなり、現在は広報紙のみでPRしている状態である。集客力を上げるため、防災行政無線の放送を再開してもらいたい。

商業協同組合:防災行政無線で放送する内容の基準を教えてください。市の団体が行う事業のPR等をしてはだめなのか。

副市長:防災行政無線は名前のとおり、原則的には防災に関する情報を放送するためのものである。現在はそれに加えて市の行事等を放送しているところだ

	<p>が、いただいたご意見については今後の検討課題としたい。</p> <p>アルカディアの会：市のPRに関しては、時と場合によって市長のトップセールスをお願いしたい。</p> <p>副市長：先ほどお話があったように、昨年、幕張メッセで匝瑳市の植木のトップセールスを行ったこともあり、市長もやぶさかではないと思うので、必要に応じて検討をしたい。</p> <p>以上</p>
--	---

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第3分科会（生活環境・都市建設）	会場	ふれあいセンター談話室
協議日時	平成23年5月15日（日） 14:05 ～ 15:55		
出席者	古谷宣夫（匝瑳市区長会会長）、秋山清壽（匝瑳市防犯協会会長）、加藤一二三（匝瑳交通安全協会副理事長）、並木富子（匝瑳交通安全協会婦人部部長）、飯島長男（匝瑳地区安全運転管理者協議会会長）、須合英猶（匝瑳市不法投棄監視員連絡会議会長）、明石猛（匝瑳市八日市場建築連組合）、小川豊（匝瑳市のさか建築組合組合長）、角田将規（社団法人千葉県建設業協会八日市場支部理事）		
	計9名		
市職員	角田道治総務課長（司会）、鈴木康伸環境生活課長、茅森茂都市整備課長、野澤英一建設課長、古作和英監査委員事務局長、若梅和巳議会事務局長、及川孝野栄総合支所長、越川奈緒美企画課主任主事（書記）		
	計8名		
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 意見交換</p> <p>○各団体の活動の中での提案について</p> <p>区長会：震災時に自主防災組織として、地域の自治防災の面で市職員と協力した実績がある。区長会としては、まちの治安維持等で各団体との連携が良好であるため、特に提案等はない。更なる充実を目指したい。</p> <p>防犯協会：防犯灯のLED化を進めているが、何年計画で実施するのか。なるべく速やかに進めてほしい。また、防犯灯の申請があった場合は速やかに設置をお願いしたい。昨年のはぼり旗を市から提供いただいたが、これからもなるべく設置をお願いしたい。</p> <p>環境生活課長：防犯灯は全部で4,300灯あるが、そのうちLED化が済んでいるものは900灯である。残りは適宜切り替えていく。</p> <p>交通安全協会：匝瑳高校と八日市場二中の通学路を整備されたい。すぐには難しいと思うので、できれば歩行者にどちらか一方を歩いてもらえるよう学生等に指導願いたい。道路の両側に学生が歩いていて車が通れない。田町のセブンイレブン前から敬愛大学八日市場高校までの道路も同様である。</p> <p>交通安全協会婦人部：同じ意見です。</p> <p>安全運転管理者協議会：事故の多い危険なところ7、8箇所に赤色回転灯を設置しているが、市の一部補助を得て設置したい。事故の多いところは道路診断を行っているが、危険箇所に対する赤色回転灯を増やしていただきたい。また、交通安全期間中の街頭キャンペーンでは各種団体が参加している</p>		

が、学校関係の方にも参加していただき、子どもたちを守るために連携をお願いしたい。

建設業協会：今回の震災で匝瑳市は被害がそれほど大きくなかったが、旭市、特に飯岡地区では被害が甚大であった。旭市と建設業協会銚子支部では災害協定を結んでいるため、初動体制が非常に良かった。県とは災害協定を結んでいるので、県道や海岸のパトロール等は行ったが、匝瑳市とは災害協定を結んでいないので、ぜひお願いしたい。今後はぜひ協力して災害に備える組織作りをしていきたい。また、通学路では歩道が少なく、子どもが道路の隅を歩いていて危険である。学校の耐震化は大分進んでいるようであるが、まだ残っている部分もあると思うのでよろしくお願いしたい。

のさか建築組合：現在、市からの事業はのさかふれあい祭りのやぐら舞台の組立て・解体・撤収ぐらいであるが、合併前は町から仕事をたくさんいただいていた。現在は市からの事業があまりなく、組合に加入していると組合費の負担もあることから、組合員が半分ほどに減少している。もっと余裕のある楽しい組合にして、組合員を取り戻したい。市から修繕等でも仕事をいただきたい。

都市整備課長：少額の工事はなるべく地元の業者をお願いしようということで、小規模工事業者の登録を財政課で始めた。例えば、公園の木製遊具等の補修等については、地元の大工さんをお願いするようにと考えている。

のさか建築組合：地元の大工さんでも良いが、できれば、個人ではなく組合を通してほしい。

八日市場建築連合組合：同じ意見です。

不法投棄監視員連絡会議：産廃業者は7、8年前から大分減っているのではないかと思います。市の美観を損なうポイ捨て、不法投棄等が多いので、これを今後どうしたら良いかが課題である。監視員の会議で、私は、普段から気づいたときにゴミを回収していただくように提案した。市から回収袋を提供していただき、実施したい。ゴミゼロ運動だけではなく、普段から日常の中で意識を変えていくべきである。市職員からそうなれば、市民も変わっていく。

○各団体からの提案に対する意見について

のさか建築組合：のぼり旗は期間が過ぎても設置したままのものがある。見慣れてしまっているし、汚れているものは誰も見ないので、撤去すべきである。新しいものだから意義がある。

防犯協会：こちらから徹底するように指示します。

交通安全協会：のぼり旗は、安協や安管協でも、シートベルトやチャイルドシート

	<p>に関するものがあるが、あまり耐久性がないので2ヶ月ほどで使えなくなってしまう。</p> <p>安全運転管理者協議会：不法投棄の監視員は大変だと思うが、監視員は何人いるのか。ゴミを捨てられているところはだいたい同じ場所である。一般のゴミをポイ捨てしている人には注意することはできるのか。どこまで権限があるのか。車のナンバーを控えて通報する等の権限があると良いのではないのか。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：ナンバーを控えて通報はできる。一般の人への注意はできない。</p> <p>のさか建築組合：ゴミを捨てられてからの処理ではなく、捨てないようにさせなければならぬ。捕まえるのは簡単である。</p> <p>交通安全協会：それは難しい。匝瑳市民ではなく、他市から来てゴミを捨てる人もいる。</p> <p>安全運転管理者協議会：日曜日にゴミゼロ運動を海岸で行っている。不法投棄の場合は車で捨てに来たところを捕まえることができるが、一般のドライバーのポイ捨てを防ぐのは難しい。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：良心に訴える以外に防ぐ方法はない。各々の監視員に回収袋を渡して、ゴミの集積所に出すようお願いしている。市職員の方にも協力して欲しい。</p> <p>環境生活課長：不法投棄監視員は20名いる。業務内容としては、産廃等の不法投棄の監視が本来の目的であったが、そういったものが減ってきているので、ポイ捨て等の細かいゴミも対応をお願いしている。また、看板や鳥居等の設置により、一定の効果が得られている。監視員と調整して対処し、権限等も研究していきたい。</p> <p>交通安全協会：不法投棄等を検挙する権限が市にあるのか。植木を切り、穴を掘って焼いている人がいるが、注意してもなかなかやめてくれない。</p> <p>環境生活課長：それはゴミの野焼きであり、原則禁止されている。罰則規定も厳しくなっており、広報等で周知しているが、あまりにひどい状況があればご連絡いただきたい。</p> <p>○ソフト面の意見について（防災・消防・交通安全・防犯等）</p> <p>区長会：区長会から地元消防団に補助金を支給しているが、過疎化により団員の成り手がいないことが問題となっている。地域での消防団の役割は非常に重要である。対策として、市からの手当や優遇措置等をもっと充実させてほしい。</p> <p>総務課長：消防団の重要性が増しているが成り手がいないということで、国の施策</p>
--	--

	<p>として女性を消防団員にするという提案があるがどうか。</p> <p>区長会：女性の消防団員は都市部にはいるが、過疎化のため若い女性がいらない。交通安全協会婦人部のような組織ができれば非常に良い戦力になると思う。</p> <p>総務課長：今回の大震災で市役所等の行政組織が機能しなくなっても、地域がまとまっているところは乗り越えていくことができ、横の連携が必要であるという教訓があったが、そのことについて提案はあるか。</p> <p>建設業協会：私の区では、区費を払ってもらえない方が一部いるが、解決策がない。他の区ではどう対処しているか。近所づきあいをしなくなっている。消防団の活動資金にもならない。</p> <p>交通安全協会：消防費は払うけど、区費は払わないという人がいる。</p> <p>区長会：都会から引っ越して来た人は、他の地域では払わなかったのに、なぜ匝瑳市は払うのかと感じていると思うので、よく説明することが大事だと思う。</p> <p>建設業協会：全てではなく、ごく一部の人だけが払っていただけなので、他に示しが見つからない。</p> <p>安全運転管理者協議会：近所づきあいをしない人がいることや、新しく移住してきた人たちの理解が得られないことについて、行政の指導でどうにかならないか。説明しても納得してくれない人がいる。災害が起きてから近所づきあいをしても遅い。</p> <p>総務課長：地区コミュニティの醸成事業としてコミュニティ補助金というものがある。地域振興協議会のようなものの中で、グランドゴルフ、演芸大会等の活動を通して地域が一体化するようという取り組みである。このような事業を活用し、そういった方々に加わっていただくような運動ができる。</p> <p>環境生活課長：コミュニティ育成事業として、市から支援をしている。市職員も加わって実施しているので、活用願いたい。</p> <p>総務課長：そういった活動でいろいろな団体が横の連携を取って地域のコミュニティをつくり、そういった方々に入ってもらえるようにと地道に取り組んでいくと良いのではないかと。</p> <p>防犯協会：区費について、旧八日市場地区では、1戸あたり500円程度、区から防犯協会へいただいているが、旧野栄地区と中央地区の一部はそうになっていない。そのため、特に旧野栄地区では活動費が足りず、活動範囲が限られてしまっている。活動範囲を平均化するため、市内全戸一律で活動費をいただけるようにしたい。</p> <p>○ハード面の意見について（道路整備等）</p> <p>総務課長：現在市が進めている道路整備の概要について、建設課長から説明をお願いします。</p>
--	--

	<p>いする。</p> <p>建設課長：現在力を入れている道路整備、改良工事は主に4本である。市道108号線、11137号線、12162号線、0103号線である。その他に交通安全関係の工事として、ガードレールやカーブミラーの設置、排水工事、急傾斜対策工事等である。</p> <p>総務課長：合併後の大きな道路計画は、八日市場栄線という九十九里ホームから海岸までの道路、国道296号線の延伸に伴った片貝線までの道路、えびす橋から海岸までの道路、野栄ふれあい公園の前から横芝光町まで抜ける道路である。また、市道については個別のものを取りかかっている。</p> <p>建設課長：県でも、国道296号線の延伸（県道八日市場野栄線）の工事をしており、片貝線まで今年度中に開通予定である。また、八日市場栄線（九十九里ホームから北へ向かう道路）についても、国道296号線まで繋がる道路が今年度中には完成予定である。</p> <p>建設業協会：一市民としては、道路が非常に整備されてきているという印象がある。道路は毎年良くなってきている実感がある。それとともに、既存の道路の傷んでいるところ、幅員が狭いところのメンテナンスをお願いしたい。</p> <p>総務課長：九十九里ホームからの道路、国道296号線からの道路、えびす橋から工業団地を抜ける道路、新市建設計画ではこの3本の道路以外にもう1本計画があったのだが、もう1本が必要かどうか。現在、交通渋滞を起こしている道路は見当たらないので、この県道2本と市道1本で良いと考えている。</p> <p>防犯協会：もう1本とはどこか。</p> <p>建設課長：須賀小の入り口から新堀川の沿線上の側道である。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：やらなくても良い。</p> <p>安全運転管理者協議会：3本で間に合うと思う。便利になった。銚子連絡道路については現在どうなっているのか。</p> <p>建設課長：若干遅れている。県の事業で情報があまりない。</p> <p>総務課長：横芝光までは有料道路だが、こちらからは一般道路の扱いになっているので、工事の内容が異なる。</p> <p>防犯協会：広域農道を県の管理にできないのか。</p> <p>建設課長：そういった意見もあり、交通量が多いことから、市でも検討をしたことがある。広域農道を県道に昇格した場合は、県道の一部市道にするなど、地域を一体として県は考えていきたいとのことである。また、広域農道は匝瑳市、旭市、多古町の3行政体が持っているため、意見の統一が必要である。事業体も県の土木担当と農林担当がそれぞれ施工しているので、そ</p>
--	--

	<p>それぞれの補助金の償還が終わるまではできない。市としても県道に昇格するとありがたいので、検討していきたい。</p> <p>のさか建築組合：もう1本の計画はいらぬ。ただし、川っ淵の道路がでこぼこなので補修の余地がある。</p> <p>○JT跡地の利活用について</p> <p>防犯協会：商工会での検討はどうなったのか。</p> <p>総務課長：商工会では提案ができないので、市で検討し、民間活用をしようということでプロポーザルの募集を行ったが、手を上げる者がいなかった。取得目的が商工業の活性化となっているが、それに限らない意見をお願いしたい。</p> <p>安全運転管理者協議会：公害にならないような企業を誘致するのが良いのではないのか。</p> <p>都市整備課長：JT跡地は住居系の用途と商業系の用途に分断されており、商業用地とする場合は建ぺい率・容積率等の規制がある。用途を変える場合には地域住民の同意が必要であるが、周りに家があり住んでいる人は規制を強めてほしいと言ひ、周辺に土地を持っている人は土地の価値が高くなるので規制を緩めて利用方法を拡大してほしいと言うので地域の合意形成が難しい。</p> <p>建設業協会：これまでのプロポーザル募集等で提案がなかった理由は、商業施設を行うには面積が小さすぎるためである。駅は近いが、乗降客が多くないので、メリットはあまりない。住宅分譲地にする方法もある。銚子市では駅前の土地を低層の住宅分譲地にした例がある。中央地区を探している人はいるので、一定の需用はある。私の知り合ひで、銚子市から匝瑳市に2月に引っ越してきた方がおり、お店を開きたいと考えているが、人口が減っている所以、心配している。まち中は空き家があるが、持ち主が手放さない。土地・用地もあまりない。</p> <p>総務課長：区画整理事業を市町村が取り組んでいる例は少ない。</p> <p>建設業協会：市では難しいと思うが、コンパクトシティのように、高齢者でも買ひ物ができる場所に住みたいという需用は潜在的にあると思う。地元業者が行うのは難しいが、ハウスメーカーやディベロッパーと協定を結んで行う等が考えられる。</p> <p>防犯協会：JT跡地は売却した方が良いのではないのか。</p> <p>安全運転管理者協議会：高齢化率26%で60歳以上が約13,000人いる。高齢者を置いて若者が出て行ってしまっている。地域の高齢者対策のための利活用や、売却した方が良いという意見もあるが、企業誘致ができれば良</p>
--	--

	<p>いと思う。</p> <p>○市内循環バスについて</p> <p>安全運転管理者協議会：年1回運行の見直しを行っていると思うが、現行のままが良いと思う。</p> <p>環境生活課長：年1回は実施していないが、匝瑳市内循環バス利用向上対策委員会というものがあり、必要に応じて会議を開催している。昨年10月2日からは土曜日も運行をしている。さまざまな要望を伺って、必要に応じて会議を開いて見直しをしていきたい。また、市内循環バスの運営には年間約6,700万円かかっている。</p> <p>総務課長：利用状況があまりに低い場合にはバスよりも小さいワゴン車に代替する方法や、タクシー券の配布等の検討案もある。</p> <p>安全運転管理者協議会：市内循環バスはなくせないと思うが、利用者は少ないので、小型車でも良い。</p> <p>防犯協会：現行のバスは何人乗りか。</p> <p>環境生活課長：20人程度である。</p> <p>不法投棄監視員連絡会議：回る場所が多くて、目的地まで非常に時間がかかる。本来に交通手段がない高齢者等しか利用しない。ルートを限定して、細かいところの要望があればそこは小さい車で良いのではないかと。</p> <p>のさか建築組合：もう1本増やして、電車利用者が電車に間に合うように、時刻表に沿って運行すれば良いのではないかと。</p> <p>交通安全協会婦人部：椿地区など、道幅が狭いところは車がすれ違うことが難しい。乗車人数が少ないので小型車にするのが良い。</p> <p>建設業協会：大幅な見直しが必要である。昼間駅前タクシーを利用する人はあまりいない。民間と協力する方法があるのではないかと。また、バスは市内全域を循環しなくても良いのではないかと。利用者の行先にあわせてルートを限定した方が良い。</p> <p>○公園のあり方について</p> <p>交通安全協会：天神山公園の桜は密集しているので、間引きしたらどうか。かえって病気になる。</p> <p>都市整備課長：天神山公園は当初、桜の公園として整備した。また、城跡のため、文化財調査をしないと工事ができないことから、土を盛って、地下の文化財に影響のない範囲で工事をした。桜はオーナーを募集し寄付されたもので、想定以上の申し込みがあり、密度が高くなってしまったという経緯がある。現在は期間が過ぎ、すべて市の所有となっているため、間引きについては今後検討したい。</p>
--	--

建設業協会：公園が足りないわけではないが、津波を想定した高台の避難場所はあるのか。

総務課長：平成20年に地域防災計画を策定しており、過去の大きな津波を参考にすると、シミュレーションでは津波が一宮線を越えるのは3か所と想定し、防災マップに掲載している。その想定で避難場所に支所、改善センター、野田小、野栄中、栄小、共興小を指定しており、現状のシミュレーションでは安全となっている。また、内閣府の指示により、秋の中央防災会議で新たなシミュレーションができれば、新たな対策を立てる。防災行政無線も津波対策用に一宮線に沿って13箇所設置している。

建設業協会：旧飯高小跡地が高い場所にあるので、避難所にとすると良いのではないのか。

総務課長：初動体制としては、ふれあいセンター、改善センターが自主避難場所、警報等が出れば全小中学校は避難場所に指定されており、2次避難場所として八日市場ドームと公民館等が指定されている。その時は防災行政無線で伝達する。防災マップに詳細が載っているので参照されたい。

○その他

交通安全協会：学校やPTAで、通学路の主な場所に通学時間帯に交通指導に立ってもらいたい。

環境生活課長：匝瑳市学校支援ボランティア事業というものがあり、教育委員会と調整し検討したい。

以上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第4分科会 (教育・交流)	会場	ふれあいセンター第3会議室
協議日時	平成23年5月15日 (日) 14:05 ~ 16:00		
出席者	大木睦子 (匝瑳市校長会)、越川正己 (匝瑳市社会教育委員会議議長)、山崎貞幹 (匝瑳市文化財審議会会長)、八木佐久司 (匝瑳市八日市場文化会副会長)、木内新 (史跡飯高檀林跡を守る会会長)、越川昭洋 (匝瑳市青少年相談員連絡協議会会長)、土屋耕一 (そうさ市子ども会育成連絡協議会会長)、山崎芳江 (匝瑳市婦人会副会長)、寺口一郎 (匝瑳市立八日市場図書館協議会委員長)、磯部範夫 (匝瑳市体育協会常務理事)、鈴木正夫 (匝瑳市体育指導委員連絡協議会副会長)、勝股完治 (匝瑳市国際交流協会副会長)、江波戸達郎 (八日市場ロータリークラブ幹事)、高橋瑛 (八日市場ライオンズクラブ会長)、大木淳司 (社団法人八日市場青年会議所理事長)		
	計15名		
市職員	池田竹四教育長、岩橋光男秘書課長 (司会)、吉川昇学校教育課長、佐藤和生涯学習課長、今井嘉則公民館長、横町昌之生涯学習室長、岩澤薫給食室長、富井将光企画課副主査 (書記)		
	計8名		
協議概要	1 自己紹介 司会者から団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。 2 意見交換 ○学校教育について 校長会：学校生活の中で、児童同士の摩擦・トラブルは長引かなければあった方が 良い。それを乗り越えていくことで子どもたちは成長していく。陰湿ない じめではなく、けんかをしたりすることで、子どもたちはいろいろなこと を学んでいく。人口減少の問題もあるが、摩擦が起きるような適正規模と いうのが大事ではないか。 社会教育委員会議：環境が変わって、学校生活にとまどいやマイナスのギャップを 感じる小1・中1プロブレムや、登校拒否等の問題があると思うが、現在 の状況はどうか。 学校教育課長：小学校には学習支援員、中学校には心の教室相談員、また、専門員 としてスクールカウンセラーを5名配置している。保育園・幼稚園から小 学校、小学校から中学校へと上がるときに、子どもたちの生活の様子を学 校同士等で共有し、できるだけ新しい環境になじんでいけるような取組み を行っている。不登校については、学校に来られる子どもは不登校担当員、 心の教室相談員が会議室等で対応している。学校に来られない子どもは、 八日市場ドームの一室を借りて「さわやかルーム」ということで、2名の		

	<p>市職員が学習援助、人間関係の相談等に応じている。</p> <p>ライオンズクラブ：市民意識調査47ページ、問30「学校、家庭、地域との連携」では、前回調査とあまり数値が変化していないようである。区の回覧で回る「学校だより」を見ると、子どもたちの活動がよく掲載されているので、この数値がもっと上がっても良いのではないか。学校だよりを見ることで、地域が学校に対してもっと協力できることがあるのではないかと思う。</p> <p>教育長：私が現役の頃に比べると、発行回数も内容も充実してきているが、地域の方の理解・協力がいただけるような工夫がもっと必要なのかもしれない。</p> <p>ロータリークラブ：中学校の部活について、自分の経験からすると、全員が野球部や陸上競技部に入っていた。厳しい練習ではあったが、自分のためにはなかった。ある程度強制力をもって、体を使う部活動をもっとやらせるべきではないか。</p> <p>学校教育課長：市内3中学校では、新1年生に対し全員加入をお願いしている。ただし、塾通い等で部活動をやりながらも、時間になったら塾へ行くということも認めている。</p> <p>子ども会育成連協会：現在は開かれた学校ということで、各学校ごとに「学校公開」を行っている。保護者や地域との関わりから、今後も継続してほしい。</p> <p>○生涯学習、スポーツ、地域文化の振興について</p> <p>体育協会：体育施設について、旧八日市場市では条例に基づいて使用料を徴収していたが、旧野栄町では条例はあるが実際には徴収していなかった。合併後はどうなっているのか。</p> <p>生涯学習課長：合併当初、徴収条例は策定している。旧野栄町では使用料を徴収していなかったことから、合併後、そのことがプラス面からマイナス面になることを避けるため、当分の間は使用料を取らないということとなった。合併して5年が経過したので、統一する方向で検討していく。</p> <p>体育協会：今年の3月に総合型地域スポーツクラブの設立総会が行われたが、この施設の使用料がひとつのネックになっている。なぜ野栄でスポーツクラブができたかという、使用料が取られないからである。文部科学省では、中学校区ごとに1クラブを基本方針としている。匝瑳市で推進していこうということになれば、やはり使用料の問題が出てくるので、学校施設（体育館等）も含めて市内で統一をお願いしたい。</p> <p>子ども会育成連協会：私は太極拳や気功の同好会に所属して活動しているが、最近、活動を見学する人が増えてきている。そういう人たちのために、もっと生涯学習やサークル等の活動を広報紙等で取り上げてもらえればありがたい。興味のある人たちに、もっとPRできる場があればと思う。</p>
--	--

文化財審議会：総合計画概要版の中で、文化財ガイドボランティア登録者数が2名となっている。私たちの団体の中にも、例えば1月の仏画公開では、各会場に3～4人ずつ派遣し、計20人位は活動している。そういうことが市で把握されているのか。それから、歴史愛好家が増えると同時に、間違った知識で史実と迷信を混同し、文化財に対し歴史的事実を変更してしまうような行為を行う人も出てきている。教育委員会で指定文化財に対する監視が必要ではないか。

ライオンズクラブ：市民でも知らない人が多いので、もっと文化財の歴史や価値をPRすべきである。

○国際交流・地域間交流について

国際交流協会：市民意識調査の結果を見ると、スポーツ関係の活動をしている人が14%、習い事をしている人が9%と多い。潜在的にやりたいという人は、今やっている人の3倍はいる。当協会が主催する日本語教室では、八日市場第二中学校のボランティア実習を受け入れている。そこでは外国人に日本語を教えているが、国際化というのは、外国のことを知るだけでなく、最後は自分の住んでいる故郷を知るところに行き着く。小さいときに地域のことをもっと知り、人のためになるようなことを経験させると、地域が豊かになり、意識調査の数値も上がっていくのではないか。

体育協会：平成9年度まで、広島県廿日市市、愛知県四日市市、滋賀県八日市市、新潟県十日町市と交流をしていた。震災をきっかけに、近隣市町村だけではなく、もっと離れたところとも友好関係を結ぶべきである。また、自治体間だけではなく、学校同士や団体間での交流も良いと思う。今回の震災を教訓にして、地域がもっと団結していかなくてはならない。

青年会議所：国際交流の一環として、台湾の鳳山と交流を行っている。そういうことがきっかけとなって、今回、鳳山から匝瑳市へ義援金が送られることが決定しているが、現状の活動からなかなか広げていくことが難しい。意識調査では「興味がある」という人が多く、JCでもいろいろ企画を考えてはいるが、なかなか手を挙げて一緒に活動してくれる人がいないというのが現状である。

ロータリークラブ：韓国のロータリークラブと姉妹交流をしていて、昨年、飯高檀林へ連れて行ったら、立派なお寺と木を見て喜んでた。震災の関係で、当ロータリークラブへ義援金として300万ウォンを寄付してくれるという話がある。長い交流があった中で「困ったときにはお互い助け合おう」という交流はできている。

○地域特性を生かした総合的な取組みについて

ロータリークラブ：活気のある八重垣神社祇園祭を友達に見せようと呼んだが、道路脇で見るぐらいで、良い見物場所がない。人を呼び込むチャンスだと思うのにもったいない気がする。

文化財審議会：観光で飯高檀林を充実させたいと考えている人は多いが、守る会での現在の活動はどうか。

飯高檀林跡を守る会：結成して20年になるが、会員は280人、年会費1000円、賛助会員は市内外で約50人いる。7ヘクタールの山林と、講堂の裏にある500株の牡丹園を維持・管理している。また、八日市場小4年生がみどりの少年団として、年2回境内の清掃に来てもらっている。他には、教育委員会と協力して4月に新緑祭、10月に飯高檀林コンサートを行っている。こういう活動を通して、地域や子どもたちとの交流を図っている。PRすることは良いことであるが、PRしすぎると、例えばせっかく植えたえびね蘭が盗まれるとか、木の根が踏み固められて良くないとか、弊害も出てくる。ボランティアでやっているのだから、毎日というわけにはいかないが、地域と寺が協力して維持・管理している。

○その他のまちづくりへの提案について

子ども会育成連協会：子ども会の中で、子どもがいなくて休会する地区が出始めている。すぐにできることではないが、子どもを産みやすい環境を整え、人口が増えるような施策を市でやってもらいたい。

企画課：市では、人口減少の抑制と後継者対策の一環として、男女の出会いの場を創出する婚活（結婚活動）支援事業を今年度から開始した。第1回イベントとして、婚活パーティーを6月19日に予定している。今後も調査やアンケートを行い、希望者のニーズに応えながら事業を展開していく予定なので、ご協力をいただきたい。

国際交流協会：匝瑳市では予測を上回る速度で人口が減少している。自然減と社会減についての原因分析をしっかりと行い、対策を取ってもらいたい。

体育協会：婚活は行政が行うのではなく、民間に委託してみてもどうか。それと、道路沿いのマキ塀等が道路上まで張り出し、現在の歩道の幅員では歩行が困難であったり、車との接触事故を起こすケースが増えている。場所によっては側溝の上までマキ塀がきているところがあり、非常に危険である。各自が責任を持って刈るように広報等で啓発をしてほしい。交通事故の防止対策の一環としても取組みをお願いしたい。

飯高檀林跡を守る会：山間部では、せっかく道路に街灯をつけてもらっても、木と重なって暗くなってしまう場合がある。隣近所では言いにくい面もあるので、そういうところを行政側で調整してもらえるとありがたい。

図書館協議会:子どもを育てることは非常に大事なことである。子どもが自ら考え、行動できる人にならなければならない。基礎学力という言葉があるが、それは知識だけではなく、身につけてそれが実際に役に立つものでなければならない。それには、小さい頃のいろいろな体験が大事である。震災が起きた時、マニュアル通りに動いた結果、津波の被害に遭ってしまったケースもあるという。このような想定外の場面が訪れたときに、状況に応じて柔軟に対応できるような、そういう力が求められている。それは、いきなり身につくものではなく、小さな体験の積み重ねから得られるものなので、そういう教育に力を入れてほしい。

ロータリークラブ:少子化対策で婚活も良いことだが、例えば宅地を造成して、他市町村に住む、子どもがいる既婚家族に安く提供するのはいかがでしょうか。子どもがいる家族は、その土地に長く住んでもらえる可能性が高いと思う。

体育協会:転入者に向けて「なぜ匝瑳市に来たのか」というアンケートを転入時にできないか。それを分析すれば解決策も少しは見えてくるのでは。住んでいる人には気づかない魅力があるのかもしれない。高齢人口が増えているので、高齢者が住み良いまちとして特化するのも良いのではないか。

ライオンズクラブ:天神山公園の特徴的な地形を利用して、スポーツ等で人集めをできないか。

飯高檀林跡を守る会:飯高檀林は最近、NHKのロケで活用されることが多い。ふれあいパークもロケ弁需要が増加し、大変好評である。

体育指導委員連協会:八日市場駅前で定時制高校に通っている生徒がたむろし、そのすぐ近くの駅西側階段下で、中学生の女の子が集まっている。警察とも協力し、早く帰宅するよう注意を呼びかけ、ときには補導等の対応を取っているが、また集まってしまい同じことの繰り返しである。駅前には市の玄関でもあり、防犯という観点からも、街灯の照明時間を延長したり、防犯カメラの設置を検討してほしい。

以上

団体懇談会会議写真

全体会



第1分科会（健康・福祉・医療）



第2分科会（産業・経済）



第3分科会（生活環境・都市建設）



第4分科会（教育・交流）



